

【2023.8.4(金)～6(日)】



=2023年も鈴鹿で熱く、そして長いレースが始まった！=

昨年に引き続き、今年もここ鈴鹿にて日本開催44回目の「鈴鹿8時間耐久レース」が開催された。今年はスポンサーの関係でチーム名を8耐のみ変更、併せてマシンカラーリングも全日本からはブルーを基調したデザインに変更し参戦となった。

鈴鹿8耐は6月、7月から事前テストがあり、今回チームはライダーを一部変更、レースウィークの8/2～3に行われた3回目の事前テストを転倒もトラブルもなく終え、ライダーブルーを秋吉 耕佑、ライダーイエローを今野 由寛、ライダーレッドを長谷川 聖とし、この8耐を戦うことに決定した。

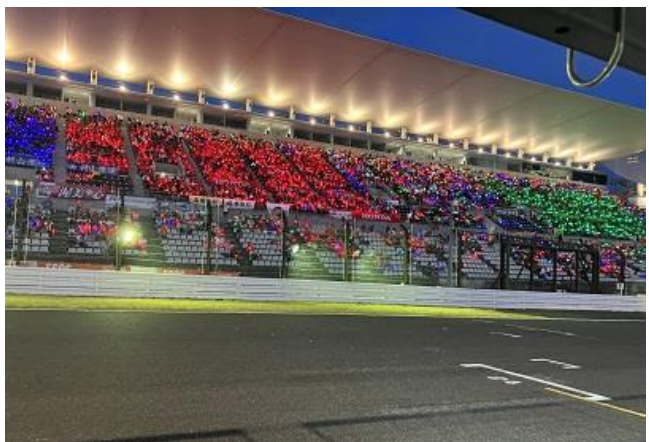
8/4と8/5の2回に行われた予選の結果、秋吉は2分7秒967、今野は2分9秒712、長谷川は2分10秒076のベストタイムを出し、上位2名の平均タイムによりグリッドが決定する。今回は秋吉と今野の平均タイムにより昨年より2つ上げた18番グリッドでのスタートとなった。

8/6の決勝は11:30スタート、8耐はルマン式スタートでスターティングライダーを秋吉とし、スタートと同時にマシンに駆け寄りエンジン音と共に1コーナーへ、秋吉は1周目から次々と他マシンをパス 8周目で10番手まで順位を上げ、ポジションをキープのまま23周目で今野に交代した。今野は順調な走りを見せ順位を落としたものの16番手を保ち、ナイトランを担当する秋吉の疲労を考慮、変則的に秋吉に再び交代、秋吉は着実に順位を上げ、60周目で13番手に。72周目まで13番手をキープ、長谷川に次を託した。ライダー3名は13番～16番手をキープしながら後半へ突入していった。





後半に入り122周目で秋吉から今野に交代し15番手をキープしていた。しかしコース内に転倒車両が残りセーフティーカーが入る一幕があり、セーフティーカーが抜けた後の周で1台にパスされ、追い抜くチャンスを伺っている間に、予定周を走り長谷川に交代した。約1時間後再び今野に交代したが、今度は西コースで雨が降り始めレッドクロスが出され、今後の雨模様によってタイヤを変更するののかの判断に迫られ、チームはこのまま降ると判断しレインタイヤに交換、しかし雨は通り雨、路面温度が高く一変してドライコンディションに。今野はレインタイヤでギリギリまで走り187周目で最後のピットイン、タイヤをスリックに戻し最終秋吉に交代、最終となる秋吉は夜間走行でも1分10秒台で周回数を重ね、最後の追い込みを掛け、総周回数208周で8時間を走り切り総合16番手でゴールした。(8時間時点暫定：終了後の車検で1台失格発生)



【鈴鹿8耐のメカニックサポート】 ホンダドリーム横浜都筑、ホンダドリーム豊中のサービススタッフ2名が参加

今年度もホンダドリームジャパンは秋吉耕佑選手のチームに全日本選手権同様にレースサポートを実施、今年の鈴鹿8耐では横浜都筑、豊中の2名が参加。横浜都筑のスタッフはサインボードとタイヤ管理補助、豊中のスタッフはガソリン管理と給油補助の役割で6、7月の事前テスト並びに8耐ウィークの1日の火曜日から合流、事前テストで決められた役割の準備と共にマシン整備など、世界耐久戦である鈴鹿8時間耐久レースに直接触れ、様々な体験と知識を得た。又、チームの無線はB+COMを使用、様々なシーンで活躍。この経験と知識は、お客様へフィードバックできる貴重なものとなると考えられる。



【鈴鹿8時間耐久レース結果】

- ・秋吉 耕佑 選手 ・今野 由寛 選手 ・長谷川 聖 選手
- ・予選グリッド 18番グリッド
- ・決勝レース(208周) 正式結果 総合15位